

## 八木、緑井、可部周辺ヘリ調査報告

### 1. 調査目的

- 土砂が流出した溪流について、21 日からの降雨を踏まえ、捜索活動中の安全対策及びテックフォース隊等による点検活動に資する溪流実態等の情報を得るため

### 2. 調査日

- 平成 26 年 8 月 22 日（金）16 時 30 分から 18 時 20 分

### 3. 調査場所

- 八木周辺：溪流番号 I-1-9-307、溪流番号 I-1-9-306、溪流番号 I-1-9-1006、溪流番号 I-1-9-303 他
- 緑井周辺：溪流番号 I-1-9-294
- 可部周辺：溪流番号 I-1-9-1153 から 1155、溪流番号 I-1-9-1149、溪流番号 I-1-9-593 他
- ※捜索活動中の I-1-9-307、I-1-9-1006、I-1-9-303、I-1-9-294 を重点実施

### 4. 調査者

- 国土技術政策総合研究所土砂災害研究部  
蒲原潤一砂防研究室長、松下一樹土砂災害研究室主任研究官
- 中国地方整備局  
梶谷有吾河川計画課長

### 5. 調査概要

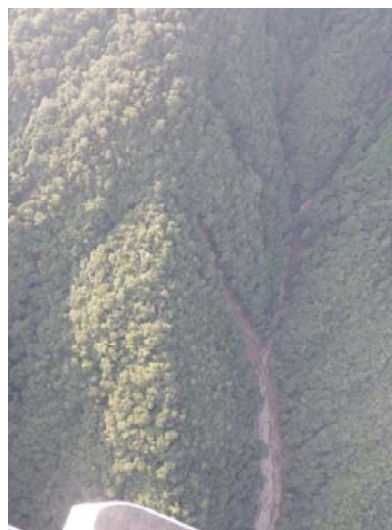
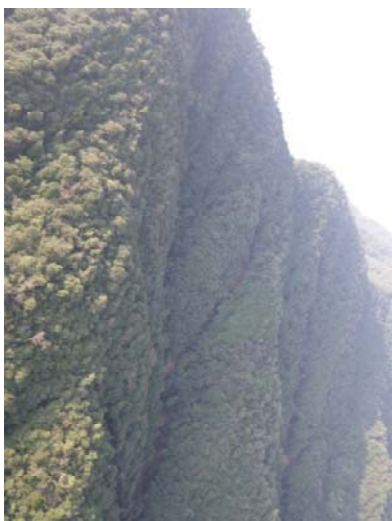
#### 1) 溪流番号 I-1-9-307

- 溪流の下流部の土砂の堆積状況、合流点直下等左岸の崩壊地 2 箇所程度、上流部の崩壊源頭部などを確認した。
- 濁りの少ない湧水が若干認められ、流下部にはルーズな土砂堆積があり特に下流部に顕著である。上空から小規模な天然ダム、崩壊滑落崖や溪岸侵食部における顕著な不安定土塊はなく、少量の降雨で下流に達するような土砂の再移動は想定しがたい。上流部の所々は露岩している。



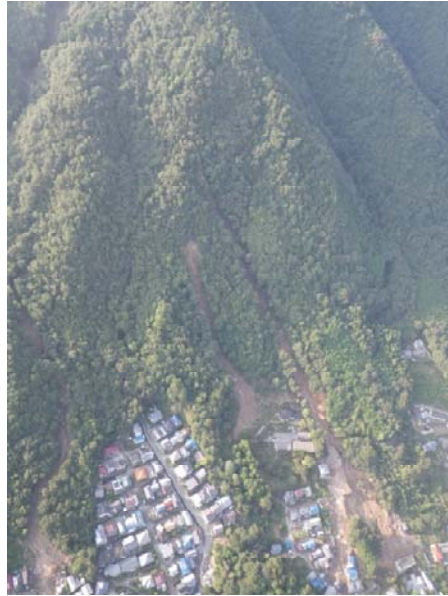
## 2) 溪流番号 I-1-9-306 (8月20日下流部地上調査)

- ・ 流下部の侵食・堆積状況、上流部の崩壊源頭部などを確認した。
- ・ 流下部にはルーズな土砂堆積があり特に下流部に顕著である。上空から小規模な天然ダム、崩壊滑落崖や溪岸侵食部における顕著な不安定土塊はなく、少量の降雨で下流に達するような土砂の再移動は想定しがたい。右岸に下端部に不安定土砂を堆積させた崩壊があり、今後上空等からの継続的な経過観察が必要。



## 3) 溪流番号 I-1-9-1006 (及び搜索活動が実施されているその南側の土砂流出)

- ・ 21日のテックフォース隊による現地地上調査と同様に溪流河床部、溪流河岸部についても、不安定土砂が認められた。
- ・ 上空から崩壊滑落崖等に顕著な不安定土塊はなく、少量の降雨で下流に達するような土砂の再移動は想定しがたい。なお、現地対策本部に地表変状の目撃情報が寄せられ別働の専門家が調査を実施している。



4) 溪流番号 I-1-9-303 (8月21日地上調査)

- ・ 21日に地上から確認未了となっていた右支川上流部の崩壊源頭部などを確認した。
- ・ 崩壊滑落崖や溪岸侵食部における顕著な不安定土塊はなく、少量の降雨等で下流に達するような土砂の再移動は想定しがたい。
- ・ 流下部にはルーズな土砂堆積があるが21日調査時点後の降雨による顕著な変化は認められない。滝状に露岩したV字状や箱型の谷地形が確認できた。



5) 溪流番号 I-1-9-294

- 溪流の下流部の土砂の堆積状況、上流部の崩壊源頭部などを確認した。
- 流走区間は湾曲しており森林に覆われて溪床状況が判然としないが、判別できるほどの大きな天然ダムや不安定な土塊は認められない。上流部には崩壊地のほか道路構造物等があり、土砂移動により被災している。
- 流下部にはルーズな土砂堆積が認められ湾曲部などに堆積しているほか、溪岸からの崩壊も多数認められ今後の土砂の再移動に注意が必要と思われる。



6) 溪流番号 I-1-9-1155

- 高松山対面の当該溪流においても幾筋かの土砂流出が認められ夥しい量の土砂が下流の可部東六丁目地区に流出し、河道を埋塞させている状況などを確認した。



7) 溪流番号 I - 1 - 9 - 1 1 4 9

- ・上流の崩壊状況と土砂の流出状況を確認した。



8) 溪流番号 I - 1 - 9 - 5 9 3

- ・上流の崩壊状況と土砂の流出状況を確認した。

